

郷土に残る

寺院参詣帳(通行手形)

(NO. 355) 平成28年1月

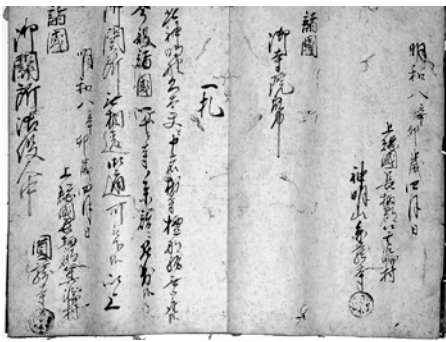
一 寺院参詣帳(通行手形)

このたび茂原市内の神明家から江戸時代以降の古文書が大量に見られました。今回は、その中の現代の朱印帳ともいべき寺院参詣帳についてその概要を記します。

元々社寺からの御朱印は、願文奉納や納経の証しとして授けられたことが由来のようですが、現代では気軽に頂くことができます。今回発見された寺院参詣帳(通行手形)の「一札」と題する前書きは、明和八年(一七七七)に箕輪村円蔵寺から諸国の寺院衆と関所役人に宛てたものです。関所役人には、下の史料のように、「この者は拙寺旦那に紛れなく、諸国一千ヶ寺の参詣が目的であるので、関所を間違ひなく通過させて下さい。」という旨のお願いをしています。つまり、関所の通行手形です。その前段の寺院衆宛には、「先祖代々、自身

の滅罪や生善のために一千ヶ寺を参詣するので、夕暮れになつてしまつたら一宿を、さらには、若し落命するようなことがあつたら弔いをお願いします。」という趣旨の依頼をしています。これは、現代の邦人保護を関係諸官に要請するパスポートの趣旨以上に、詳細な依頼がされており、大変興味深いものがあります。

二 参詣寺院あれこれ



▲寺院参詣帳(通行手形) (神明家文書)

参詣帳には、参詣人の保護要請や関所の通行許可願いに

続いて、檀那寺の円蔵寺を筆頭に延べ三十四ヶ寺の記帳がされています。中央に「南無妙法蓮華経」のお題目が記載され、授与者の僧侶名や寺院名などが記されています。

主な参詣寺院は、本納の蓮福寺、大網の本国寺、蓮照寺、東金の本漸寺、西福寺、本松寺、土気の善勝寺、本壽寺など、日蓮宗妙満寺派のいわゆる上総十ヶ寺と呼ばれている寺院がほとんどです。このうち、複数回参詣している寺院も少なくありませんが、土気の善勝寺など、住職が上洛している間の代筆を含めて四回参詣している寺院もあります。また、遠方では、船で川を渡つて市川の関所を通過したと思われる浅草の慶印寺や品川の妙国寺、本光寺にもそれぞれ一回ずつ参詣しています。現代のように交通機関が発達しておらず、徒歩が中心であるため、どのくらいの歳月をかけて寺院の参詣をしたかは不明ですが、一朝一夕でないことだけは明らかです。

参詣帳には、参詣人の保護要請や関所の通行許可願いに

茂原市文化財審議会委員 小川 力也

文芸コーナー

唄

高橋 良昌

明治 大正 昭和 平成
各時代の懐かしい唄
思い出深い私達の心の宝物
幼い時 母の背中
「ねんねんころりよ おころりよ」から
初まり 人生その時代の流れの唄
時に勇気づけられ人の心を癒やす唄
活力が湧くりアナーな音楽
誰しもが印象に残る魅惑の唄
世界一九六ヶ国にある国歌
作詩は此所の意味があり一音一音の
積重ね アルプスのヨーデル
ブラジルのサンバ 全米のゴスペル
キューバのラテン音楽
オセアニアのアボリジニの唄
アフリカ大陸の強烈なリズム
エスキモーの収穫の唄
トニベネットの
「思い出のサンフランシスコ」
ジョンスタールホードの
「霧のロンドンブリッジ」
唄は心の食べもの
唄は平和の文字を大きくする
各国に文化と
風習がある中に唄が存在する
唄というものは
不思議なパワーをもつ魔法が
詰まっている送り物だと思ふ

◎選評 斎藤正敏

思い出深い心の宝物。いつの時代でも懐かしい唄があると作者は言います。唄をめぐっての思いが広がっていきますが、それもこれも唄が宿している不思議なパワーの賜なのでしょう。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先(直接選者)へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

